

令和7年(2025年)1月29日

西宮市議会議長 八木 米太郎 様

教育子ども常任委員会 管内視察報告書

■視察日時 令和6年(2024年)11月20日(水)
午後1時30分から午後4時40分まで

■視察委員
委員長 浜口 ひとし
副委員長 おくの 尚 美
委員 一色 風子
〃 大川原 成彦
〃 川村 よしと
〃 佐野 ひろみ
〃 庄本 けんじ
〃 たかの しん

■視察先 ①上甲子園中学校 西宮市上甲子園4丁目9番11号
②南甲子園小学校 西宮市南甲子園3丁目9番16号

■視察事項 学校施設のマネジメントについて

■視察先対応者 教育総括室長 薩 美 征 夫
学校管理課長 二軒谷 隆 弘
学校管理課担当課長 谷 木 陽 介
営繕課長 堤 下 寿 生
設備課長 菅 野 大 和
学校施設保全課長 日 下 明
上甲子園中学校校長 飯 干 英 典
南甲子園小学校校長 神 崎 雅 之

■ 視察風景

上甲子園中学校



南甲子園小学校



委員会管内視察報告

委員氏名 浜口 ひとし

調査先及び調査事項

- 西宮市立上甲子園中学校(兵庫県西宮市上甲子園4丁目9-11)
- 西宮市立南甲子園小学校(兵庫県西宮市南甲子園3丁目9-16)

管内視察の目的

今回の管内視察の目的は更新によって学校施設の課題がどの程度改善できるのかを確認することである。市内60ある小・中学校の中でも、老朽化が進み施設による課題が多い上甲子園中学校と、比較的近年に建替えが行われた南甲子園小学校を視察することとした。

西宮市立上甲子園中学校

市立上甲子園中学校は昭和23年に創設した、本市でも老朽化が進んだ中学校の1つである。特に上甲子園中学校を視察して最初に驚いたのは、一部校舎が屋外に廊下があることだった。校舎間を繋ぐ渡り廊下では一定見るが、校舎の廊下が屋外になっているのは珍しい。冬の寒い日や強い雨の日など、防水・防寒上問題があると考ええる。



その校舎に配置された理科室は、時間がとまったような雰囲気だった。近年新しい学校の施設と比較しても、授業にも影響を及ぼす可能性は否めない。教育環境として極めて課題の多い特別教室という印象だった。校舎を移動すると、ところどころで小さな修繕を施した跡が散見できた。各所にまだ修繕の必要性を感じる状況も確認出来ることから、校舎の改築や修繕に予算が追いついていないと感じた。

上甲子園中学校に限らず、本市の小・中学校では転入人口が急激に増えたことによる教室確保対策として校舎の増築を繰り返した時期があった。校舎の建設基準が時代によって変更されることによって、旧校舎と増築した校舎の高さが異なる課題が生じている。写真を見てわかるようにつなぎ目には段差が生じており、階が上がるごとにその段差は大きくなっている。(写真の階段参照)



校舎のつなぎ目には耐震対策が施されているものの、段差によって車いす等の移動が極めて困難となっており、インクルーシブ教育の観点からすれば極めて施設課題の大きい事案と言える。ネット情報によれば、自走用車椅子に乗って自分でスロープの上を移動する場合、スロープの長さは段差の約12倍、傾斜角度は5度以下と推奨されている。中学校施設の階段踏み面は約24cmとされているので、最も段差の多い場所にスロープを設置する場合約23メートル必要となる。仮設での対応は困難であり、各所にエレベータを設置することも費用的に困難である。

基本的に校舎の整備の考え方が昭和初期に考えられたものであり、様々な場所で時代のニーズに対応出来ていないと感じる。トイレの多くは和式トイレが未だに残っており、家庭で洋式トイレが常識となっている時代にもあっていない。生徒の中には学校のトイレを使用したくないという声もよく聞くことから、学校のトイレ改修は急ぐ必要がある。また本市は他市と比較して普通教室や体育館への空調設置が進んでいるが、教室や廊下の窓、体育館の屋根や壁など築年数の古い学校程断熱効果が低い状況にある。施設の老朽化によって、冷暖房効果が低くなっている可能性もあると感じた。



ベビーブームと転入人口の増加によって、本市は急激に増えた児童数を受け入れる為に学校施設の増築を繰り返した。施設の更新時に築年数の異なる棟が存在することで、一体的な更新を妨げる課題がある。こうした極めて古い校舎は機能性に問題があるだけでなく、働く教員や通う生徒の指導・就学にも影響を及ぼすと感じた。



西宮市立南甲子園小学校

西宮市立南甲子園小学校は昭和33年に鳴尾小学校より分離独立した小学校である。創立から58年目の年にあたる平成28年に今の新校舎が完成した。築9年が経過しようとしているが、本市でも近年に建設された学校とあって綺麗であることはもちろん、近年の時代に応じた整備が施されている。

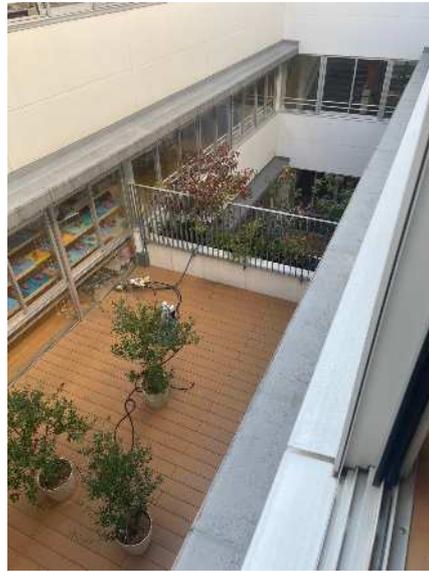


南甲子園小学校は基本的に廊下等を広く設計してゆとりある空間を作っている。ぶつかる心配もなく、閉塞感もない。木調のデザインで柔らかい内装なので、居心地が良いと感じた。広い廊下は自由時間等に児童たちが自主学习や休息をとれるよう工夫されており、教室も壁がなく開放的な空間となっている。

トイレは清潔感のある空間で、洋式への対応も十分だった。トイレの外に小さなベンチがあり、先生とのちょっとした相談や精神面で疲れた児童が少し息抜き出来るスペースとして活用されているなど、児童のちょっとした避難場所としての工夫もされている。



南甲子園小学校は口の字型校舎で、中庭によって自然光をたくさん校内に取り込むよう設計されている。階段や校舎と運動場を繋ぐスロープなど、整理された動線によって児童の移動が円滑・安全に実施できることも容易に期待出来る。学校は児童・生徒が家よりも長く過ごす場所である。明るさや清潔感、防寒対策など、居心地の良さも学校施設に求められる重要な要素だと感じた。また南甲子園小学校は臨港に近い位置に存在する為、南海トラフ等への大震災による津波対策も行っている。本市は海岸付近の小中学校を建て替える際に垂直避難用の外階段を整備することになっている。避難所に必要な備蓄倉庫も整備されており、災害時の拠点としても十分活用できる施設となっている。



今回は本市における老朽化の課題がある学校と建替えによって改善された学校について視察を行った。老朽化の進んだ学校では

- 増築によって段差などインクルーシブ教育への支障が散見されること
- 防寒対策が不十分で、空調が効果的に機能していない恐れがあること
- 新しい学校と古い学校では施設面での指導・教育格差が生じていること

など多くの課題が存在する。また全国的に公共施設の建設費が高騰しており、すべての学校を更新することは極めて困難である。

【提言】

・施設総量と建設コスト、両方の縮減を目的とした取り組みが重要。小学校と中学校との統廃合や、図書館・公民館など周辺公共施設との複合化などを進めるためにも、長期計画の策定に必要な方針（ビジョン）を示すべき。

管内視察報告書

市民クラブ おくの 尚美

視察日時 令和6年11月20日(水)13:30~
視察先 ①西宮市立上甲子園中学校
②西宮市立南甲子園小学校
視察事項 学校施設のマネジメントについて

① 西宮市立上甲子園中学校

昭和23年開校の現校舎は昭和31年から昭和57年の間に生徒数の増に合わせて度建て増しを繰り返していった。建築年度によって建物の構造に違いがあり、一番大きなものは建物の一階の高さが違うことである。西校舎の中にも南と北の接続部分があり階ごとにその接続部分の階段の段数が変わってしまっている。

また、廊下の幅も西校舎と北校舎では違いがあるなどがある。南校舎に関しても外廊下校舎であるため雨の日の行動にも制限がある。同じ一階の校舎であっても、中庭を挟んでかなり大きな段差がある。西校舎1階の木工室は西校舎の南にあたり、大きな段差があるため、車いすの生徒は同じ校内に居ながらもオンラインでの授業を余儀なくされているという言葉に衝撃を受けた。エレベーター一基の整備だけでは学校中のバリアフリー化には程遠く、では何基エレベーターが必要かといわれると、そういう数の問題でないことが、この上甲子園中学校の校舎からよくわかる。

また外廊下校舎の大きな問題としてトイレがある。トイレに入る様子が丸見えの状態で、カーテンや扉などで中の様子は見えないように工夫されているが、思春期の児童生徒が過ごす環境としては疑問がある。外廊下校舎の課題はこればかりではなく、雨ざらしになるため雨の日の移動には校内であっても濡れるし廊下に物は出しておけない。必然的に教室内部に収容することとなるので教室がとても狭いということがあげられる。

西宮市では、児童生徒の急増期に校舎が不足し少しでも安価な工法として外廊下校舎の建設がなされたと聞いている。まだ数多く残っている市内の外廊下校舎を利用して児童生徒は日々、こういった課題に直面し、こういった環境下での生活を強いられている。

校舎の老朽化は設備の老朽化でもある。見せていただいた1階理科室や木工室などは、匂いや水栓の数、通気性などの環境が、生徒たちの学習環境として適切なものなのかについても疑問が残る。

② 西宮市立南甲子園小学校

平成28年竣工の新しい校舎を使用している学校である。以前は昭和33年開校時の南北校舎で南北の校舎とも廊下に壁がない外廊下校舎であった。児童増と老朽化、及び海岸から近い距離でもありながら、周辺には戸建てが多く津波避難ビルが少ないことから地域の要請を受け津波避難ビルとしての機能も有している。

改築校舎は南北の廊下を挟んで教室がある振り分け校舎の造りながら、間に光庭を造ることで採光があり非常に明るく感じる。また、廊下は多目的スペースも兼ねており、広い空間は児童生徒の学習道具の収納やコート掛けなども置かれ、教室内に程よいスペースが確保されていることがわかる。4階にある防災倉庫は非常時に地域住民の避難場所になることが想定されたもので綺麗に整備されていた。

訪問時はクラブ活動をされているということで、校内各所で子どもたちが創造的に活動していてとても明るく活発な印象をうけた。

最後に市への提言

改築に多大な費用がかかるのは理解するところではありますが、上甲子園中学校の課題は長寿命化工事では解決できるものではなく、校舎を全面改築することしか解決策はないと考える。改築後の南甲子園小学校の明るく快適で清潔な学習空間とは雲泥の差となっている。明らかに公教育の公平性の観点からも問題があるといえる。その解消のためには他の公共施設の複合化も視野にいれ、市としての方針を一刻も早く打ち出し、今も活動している子どもたちの学びの環境が改善されることを強く望むものである。

また、上甲子園中学校の校門の門柱が傾いており、安全性についても疑義が残る。南甲子園小学校が災害に最大限に考慮したつくりとなっているのにと此処でも疑問に思わざるを得ない。速やかな改善を求めるものである。

管内視察報告書

一色風子

上甲子園中学校

【校舎概要】

昭和 23 年開校、24 年に現地に校舎竣工、創立 76 年。その間に木造校舎から昭和 57 年に改築完成し、プール、体育館、格技室がそれぞれに竣工し阪神淡路大震災後補強工事などを経て今に至る。

【感想】

生徒数増などの社会的要因を受けながら校舎の増改築が繰り返されてきたこともあり、校舎間を繋ぐ節目には段差が生じておりバリアフリーとは言い難い状況であった。

また、特別教室への移動などが困難な生徒は各支援学級などでのオンラインでの授業参加になるなど教育環境が整っておらず早急な対応が必要と感じた。

南甲子園小学校

【校舎概要】

昭和 33 年開校、同年校舎竣工、創立 66 年。平成 22 年学級増により PTA 室、プレイルームを普通教室へ改修、24 年にはプレハブ校舎 2 教室設置。平成 28 年現在の新校舎に竣工。

【感想】

新校舎は DB 方式の契約により改築したことで、より民間事業者からのノウハウを提案していただき使い勝手の良いコンパクトで良好な教育環境となっているように感じる。児童の学習環境としても教室以外の場所の有効活用がしやすく教員にとっても目を配りやすい働きやすい環境となっているように感じた。

【提言】

早急にバリアフリー化を進めていくべきと考える。老朽化した施設は全てが悪いわけではないが明るく清潔感があり温かみのある学校になるよう手法を様々に検討して進めてほしい。また、民間提案を受けられることができる DB 方式での改築などは今後苦楽園小中学校にて行われる予定となっているがそこでのノウハウをしっかりと蓄積し今後の中規模改修時にはその良いところを活用してほしい。

委員会行政視察報告書

委員氏名 大川原 成彦

調査の期間	令和6年(2024年)11月20日(水)
調査先 及び 調査事項	①上甲子園中学校 ②南甲子園小学校

①上甲子園中学校
昭和23年開校。現在の校舎のものは、昭和24年から昭和32年までに建設された。平成7年には阪神・淡路大震災により、体育館、校舎に甚大な被害を被る。その後、外壁改修、耐震補強等の処置がなされる。令和2年には仮設校舎完成。現在は通常学級17クラス、その他学級7クラス、全校648名の生徒が在籍。
竣工時期の異なる校舎が3系統、とプレハブ校舎、体育館が使われているが、段差が多く危険で、バリアフリーにはほど遠い。昔ながらの、古い教室、古い什器も使われているが、その事自体は、設備を大切に使うと言う部分で教育的価値があると考えている。但し、照明を明るいものに変えるとか、スペックが陳腐化した機材は新調するなど、最低限の教育環境は整えるべきである。教室以外の設備、例えばトイレの改修

など、日常生活に必要な設備の近代化も、優先的に行う必要がある。

上甲子園中の今後の校舎改修については、もちろん全校舎を更新するのが妥当で、他の学校施設においても、一部建替えを繰り返すと、全体の調和に悪影響があることから、全施設の一斉更新が望ましい。使える施設を残すのであれば、一般教室以外の用途に限定するなどの工夫が必要と考える。

②南甲子園小学校

昭和 33 年開校。昭和 30 年代から 40 年代にかけて、校舎の拡張が行われた。平成 28 年には、現在の新校舎が竣工、供用開始となる。現在は通常学級 28 クラス、その他学級 4 クラス、全校 897 名の児童が在籍。

校舎のセンター部分は、広くスペースがとられ、ラーニングセンターという自主学習エリアが用意されているなど、今風の明るい小学校となっている。

海岸が近い事もあり、津波避難ビルに指定されている事から、外付けの階段から屋上に上がることができる。

地域との関係も良好の様で、学校施設、校舎として改善すべき課題は、特に感じなかった。

委員会行政視察報告書

委員氏名 川村 よしと

調査の期間	令和6年(2024年)11月20日(水)
調査先	<ul style="list-style-type: none">・上甲子園中学校・南甲子園小学校

<p>上甲子園中学校は、私の中学生時代にタイムスリップしたかのような感覚になるほど、ハード面での整備が整っていない印象を受けた。管外視察で最新の学校を見てきただけに、落差が大変大きく感じた。「ハード面の整備で優先順位が最も高いのはどこですか?」という問いに対して、現場の先生方が異口同音に「トイレです。」と答えていたのが印象的だった。理由としては「トイレが汚いから学校が嫌だ。」と言う生徒が多いことを挙げていたが、個人的にはもっと他の設備が挙げられるのではと予想していた。</p>
<p>一方で、南甲子園小学校は視察先のハード面に近く、公立の小学校として十分な環境が整っていると感じた。</p>
<p>同じ市内でこれだけの格差があるのは大変な驚きであるが、抜本的な改善をするためには長寿命化ではなく建て替えや移転等が必要であると考えられる。そして、そのためには数十億円規模の予算編成が必要になるため大変悩ましいところである。</p>
<p>学校教育施策こそ、基礎自治体の使命とも言える。その財源捻出のための行財政改革こそ今の西宮市にとって最も必要であると再認識させられる視察であった。</p>
<p>以上</p>

委員名：佐野ひろみ

行政視察報告書

視察日：2024/11/20

視察先：上甲子園中学校・南甲子園小学校

【感想】

上甲子園中学校：1957年に現在の校舎のもとができたので、築67年である。それはそれは古く、段差も多く、木枠の窓も残り、バリアだらけの校舎だった。和式トイレもまだ残っており、生徒と教員にとって、不便で我慢が必要な環境である。根本的な解決策は「改築」だが、予算不足を理由にパッチワーク的に改修し、なんとか「長寿命化」＝「延命」しているのが実情だ。教育予算を渋る国の政策の結果、生徒が長い時間を過ごす生活の場である学校の老朽化がとまらない。

私事になるが、シックハウスと香害を患っている。特に、防虫剤や柔軟剤・ファブリーズなどを嗅ぐと頭痛が起き、神経系に影響し握力が弱くなる症状が出るが、南校舎の1階の第1理科室に数分入った後、大変気分が悪くなり、翌日まで重い頭痛が続いた。古い校舎特有の蓄積された埃の匂いや、床のワックスの匂い(昔は人体に有害なものも含まれていた)、そして換気の悪さも相まって、私にとっては非常に息苦しかった。ここで長時間を過ごす教員と生徒の健康が心配である。学校環境衛生検査で室内空気質測定分析をすべきだと考える。

学校予算は年間1,400万円で、これは全校生徒648名の上甲子園中学校では一人当たり、約2万円となる。そこから建物の修理代、吹奏楽部の楽器の修理代等を捻出しており、学校教育を滞りなく行うためには、もっと予算が必要と校長先生よりお話があった。また、国語の教員が2024年11月より欠員しており、他の国語の教員が通常の業務以上の量を抱えて、対応している状態だということだった。

南甲子園小学校：改築後8年の小学校。回廊型教室、ベビーピンクやペールグリーンの壁色、洋式トイレ、子ども達が落ち着くために廊下の隅っこに設置されたベンチなどがあり、校舎内は大変明るかった。図書室も丁寧に整理整頓されており、図書館司書さんが選定された本や絵本が並び、児童が楽しそうに本を読んでいたのが印象的だった。

教員によると、環境が子どもの精神に与える影響は大きく、特に高学年になると、老朽化した校舎で過ごす児童より、新しい校舎で過ごす児童の方が、落ち着いている傾向がある、ということだった。

屋上の面積1/3ほどに設置されたソーラーパネルは大きい割に発電量は南甲子園小学校の年間電力使用量の1%ほどと期待外れだった。ソーラーパネルは、製造過程で二酸化炭素を出し、使用後は粗大ごみになるので、今後の設置は不要だと感じた。教育の一環として、ソーラーパネルが必要ならば、小型で十分ではなかろうか。

また、運動場南側に建設された10数階建てのマンションが、大きな影を作り、運動場を覆っ

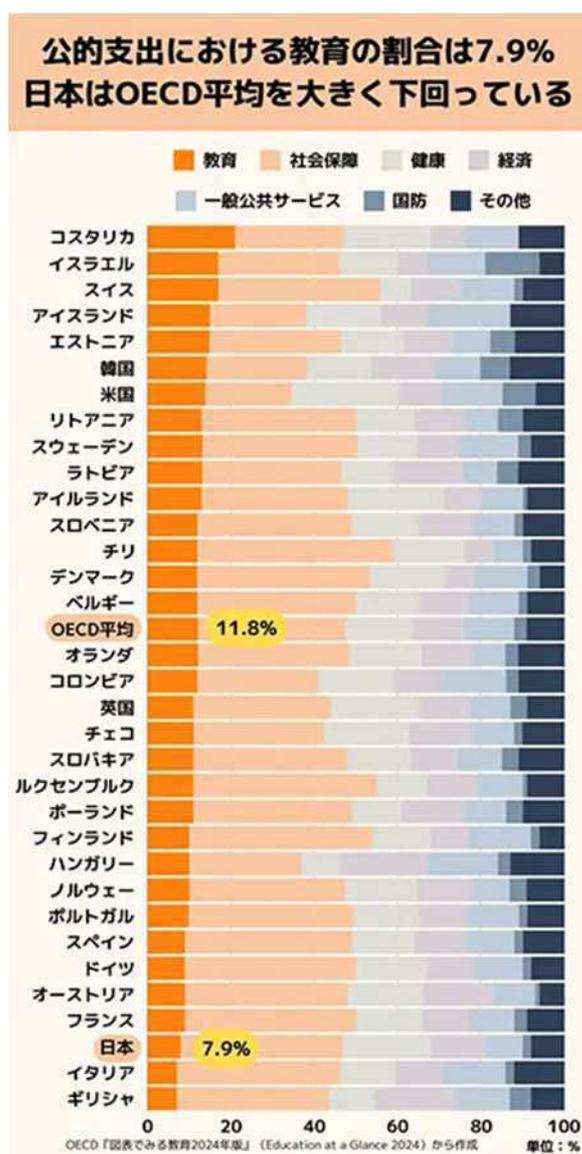
ていたのも気になった。1年を通して、日中の運動場は明るくあるべきである。教育環境を守るため、学校周辺の建物の高さ規制が必要だと思われる。

今の学校に足りないのは人と予算だと痛感した視察でした。お忙しい中、視察を受け入れて下さった関係者の皆さま、ありがとうございました。

【参考資料】

2024年10月3日 教育新聞【Q&A 解説】国際データで見る日本の学校教育 際立つ教師の役割

<https://www.kyobun.co.jp/article/2024100301>



教育こども常任委員会管内視察報告

庄本けんじ

- ・視察目的 築年の古い学校と比較的新しい学校の現状を視察
- ・視察日時 2024年11月20日(水) 午後
- ・視察場所 上甲子園中学校および南甲子園小学校

<上甲子園中学校>

上甲子園中学校は、1948年に市立今津中学校より分離し、開校した。1949年、新校舎が竣工した。1950年4月に開校式典を開催し、この日を開校記念日と位置づけている。1957年10月、第6期校舎が完成し、現在の校舎のもとができる。1959年8月にプールができ、9月に給食室の竣工と学校給食の開始、翌年の1960年には体育館兼講堂が建てられ、その後、1991年、格技室が設置されている。

校舎の竣工から今日までのあいだ、改築工事、外壁塗装工事、改修工事、耐震補強工事などがおこなわれ、維持されてきている。

印象深いところを紹介しておく。

(理科室)

説明では、60年間使用しているとのこと。



(技術室)

ドリル盤。博物館に展示してもよいような古い工作機。現役で働いているとのこと。



(トイレ)

トイレは、順次、乾式に改修している。

また、洋式化もすすめることにはなっているが、進捗が遅い。



(格技室と体育館)

格技室



体育館



(校舎)

北校舎と西校舎は行き来できるようにつながっているが、それぞれの建築時期が異なり、その間に建築基準が変更されたため、階高が異なった状態でつながっている。そのため、各階の接続部分に段差が生じ、階段の設置で廊下をつないでいる。校舎内のバリアフリーにおいて、一般教室や特別教室の配置などの工夫で対応しているように見受けられるが、課題が解決できていない。



<南甲子園小学校>

南甲子園小学校は、1958年に鳴尾小学校より分離独立し、その年の10月10日開校式を行い、この日を開校記念日としている。1958年9月、新校舎の第一期工事竣工を皮切りに、校舎の建設は、1967年2月、第七期工事竣工を迎えるまで続き、完了した。

その後、給食室、図書室、視聴覚室、体育館が建設、整備された。

校舎の改修が検討され、2011年11月、校舎改築推進委員会が設置され、改築工事が終了し、2016年3月に新校舎へ移転、現在の校舎となっている。

(ラーニングスペース)

従来の教室の配置とは違って、廊下の部分がラーニングスペースになっていて、教室が開放的な造りになっているのが特徴だった。

(ベンチの設置)

トイレの近くにはベンチが設置されていて、児童らのちょっとした居場所、休息、交流の場になっている。



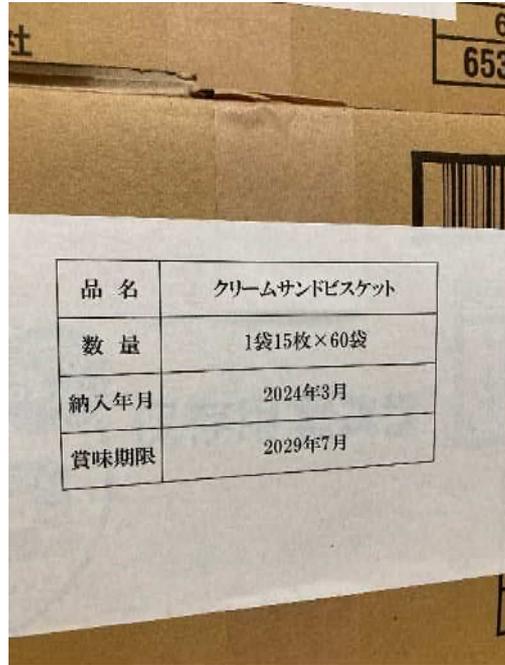
(太陽光パネル=環境学習)

環境学習にも活用されている太陽光パネルとその掲示版が設置されている。



(防災用品の備蓄)

学校は、防災拠点であり、災害時の避難所ともなる。設備の充実などが求められるが、水準に満たしているかどうかはさておき、専用の倉庫が設置されている。



<所見>

校舎の築年数が長期になれば、老朽化対策が必要になる。しかし、老朽化への対応と、バリアフリー、インクルーシブ教育、GIGA スクールなど、社会環境や教育環境変化への対応は、おのずと違ってくる。古いものを大切に使い続けることは、良いことだと評価しておきたい。

ただ、改築、改修の計画がすすめられる過程では、改築、改修の計画の対象となる学校では、学校環境の改善が社会の発展水準に追いつくことができるが、そうでない学校では、教育環境改善の独自の対応がなければ取り残され、教育の格差を生じさせることになりかねない。現に、そのような問題、課題が生じているように見受けられる。

老朽化対策と、社会環境や教育環境に求められる対策と対応は、別々に計画を立て、推進してゆくべきだと考える。

以上

令和6年度
教育子ども常任委員会 管内視察報告

教育子ども常任委員
たかの しん

【視察日程】

令和6年（2024年）11月20日（水）

【調査先】

西宮市立上甲子園中学校
西宮市立南甲子園小学校

【調査概要】

本市の市立学校校舎のうち、最も古い時期に整備された学校の一つである上甲子園中学校と、近年改築したばかりの南甲子園小学校を視察した。上甲子園中学校では、築年数が経過した校舎の実情を確認して課題を認識し、南甲子園小学校では直近の工事ならではの工夫や潮流を把握した。

【所感・提言】

古い校舎で過ごす児童・生徒が多くいることは、本市の大きな課題であると認識していたが、教室から直接屋外につながる外廊下形式や、特別教室の設備の古さなど、実際に目にすることで、対策が急務であることを改めて思い知らされた。一方、新しい学校では木調の温かみやオープンスペースの充実など、単に新しいというだけではない、教育・生活環境への配慮が見て取れた。学校ごとに築年数の差が生じるのは当然のこととはいえ、同じ市立学校でありながらこれほどまでに質が異なることは、やはり看過しがたい状況と考える。

国は学校施設について長寿命化を推し進めているが、やはり抜本的な改善は改築によってしか果たせないことから、国庫補助を獲得するための条件整理や、市による財源捻出を図り、できる限り早期の改築を進めるべきである。一方、長寿命化においても、環境改善に資する工事は一定程度可能であり、先行事例の調査や関係者との丁寧な協議を重ね、効果を最大化するよう要望する。また、トイレ改修のような「長寿命化改修とは別に、部分的な環境改善を図る」という取り組みを、特別教室の設備更新等についても行うことを検討されたい。

なお、校舎の築年数が古い学校では、本来は一時的な使用であるはずの仮設校舎が、既存校舎より快適に過ごせる可能性があることも感じた。整備する仮設校舎の質を高めることが大前提ではあるが、将来的な減築が容易であることから、今後の改築や長寿命化の中では、仮設校舎の有効な活用を検討するよう提言する。